

主な内容

各部・委員会報告
 会員園の取り組み紹介
 令和三年度
 全国大会「予定」




会報

全国国公立幼稚園・こども園長会

時代の風を味方に付け、 必要なことを実行する

全国国公立幼稚園・こども園長会

会長 箕輪 恵美



風を味方に付ける

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症によって社会も教育も大きな影響を受けた一年でした。コロナ禍は、社会の仕組みや働き方を大きく変えようとしています。まるで抗えないような風が吹いているようですが、その風を味方に付けると、国立の園が地域の幼児教育の要として力を発揮していくための条件整備を一気に進めることができます。その一つが、ICT環境の整備です。国立の園にはICT環境が整っていない園が多くありますが、危機管理上も、これからの時代の教育を

創造するためにも早急に整備が必要と考えます。国公幼からもその必要性を関係各所に強く訴えてきたところ、昨年末に示された文科省の補正予算や令和三年度概算要求に「幼稚園のICT環境整備支援」が盛り込まれました。対象には幼稚園型認定こども園も含まれています。

ICT環境が整うと情報の収集・共有・発信の選択肢が広がり、スピード感も上がります。会議や研修も内容によってはオンラインで開催できます。幼児期の教育として情報機器をいかに効果的に取り扱うか、という課題にも挑戦できます。整備が必要な地域は、園長会からも現状及びこの予算の活用により見込まれる効果を示し、整備が進むように積極的に働き掛けましょう。

もう一つは、預かり保育の拡充です。菅総理の所信表明を受け、昨年十二月二十一日に「新子育て安心プラン」が決定、公表されました。その中に、幼稚園の施設を活用して預かり保育を拡充する旨が明記されています。預かり保育を実施したくてもできなかった地域やボランティア

で預かり保育を行ってきた園は、このチャンスを生かし、道を切り拓きましょう。国公幼としても、預かり保育の拡充に合わせて「三年保育の拡充」も実現できるよう、積極的に活動してまいります。

常に学び続け、

よりよい実践を積み重ねる
 時代の風を読み、味方に付けると共に、コロナ禍で考えたこと、見つめ直したことを年度の終わりに再確認し、次年度の教育課程や日々の実践に生かしていく必要があります。

様々な制約や配慮が必要な中でも、できる形で教育を、と考え行動したと。生活の仕方や行事の在り方を工夫しながら、感染症対策と教育の質を両立できる道を模索して実践してきたこと。例年通りにはいかないからこそ、幼児教育の本質とは何か、を問い直したこと。難しい状況の中でも各園が前に進もうと努力している営みは、教育の質の維持・向上を支えているはずだ。

さらに高みを目指していくためには、謙虚に学び続けていくことが重要です。国公幼には全国各地に志が高く歩み続けている仲間が大勢います。会員園の創意工夫あふれる実践を学び合い、高め合うことができます。共に切磋琢磨しながら、これからは全ての子どもたちに質の高い教育を提供する、という国公幼の役割を果たしてまいります。